

## 盛岡市におけるハシブトガラスとハシボソガラスの生息分布について

藤田紀之<sup>1</sup> (株式会社オープン GIS)・東 淳樹 (岩手大・農)

**背景・目的** ハシブトガラス(*Corvus macrorhynchos*)と、ハシボソガラス(*C. corone*)は日本全国に広く分布しているカラス科の鳥類である。両種は生息分布域が広く、人間の生活圏と重複している場合が多い。そのため、ゴミの食い荒らしや、埒周辺の糞害および鳴き声による騒音、繁殖期における人への攻撃などの諸問題を引き起こしている。これらの諸問題を根本的に解決するためには、カラス類の基礎的な生態学的知見から、長期的な管理計画を立案していく事が重要である。しかし、カラス類の生態学的知見は未だ少ない状況である。そこで、カラス類の保全・管理計画の立案のための資料とするため、本研究では都市環境と農耕地が混在しており、両種が同所的に生息している盛岡市において、両種の生息分布を把握し、それを規定する要因を探ることを目的とした。

**調査方法** 調査期間は2003年7月から2004年7月までの1年間とした。1日のカラス類の活動時間内における本種の行動や環境利用を解析するために、盛岡市内全域における日の出から日没までの両種の生息確認位置情報を収集した。ただし、調査対象地は住宅地および農耕地を中心とし、森林地帯は除外した。カラス類の活動時間帯に市内全域を自転車でごまなく回り、止まっているカラス類の位置をGPS(e-trex, Garmin社製)で記録した。また同時に、カラス類を観察した時間および行動も記録した。

本研究では、行動および観察した時間帯の違いに着目し、分布を規定する要因として考えられる環境要因やゴミとの関係を分析した。

**環境情報** 環境情報は平成12年に測量された1/25,000の盛岡市都市計画図を縮小編集されたものを、GISソフト(MicroImage社 TNT Mips v7.0)上でトレースし、電子データへ変換したものをを用いた。この地図は盛岡市の土地利用を水田、畑、樹林、原野、水域、宅地、その他の環境の7種に分類している。本研究ではこれらの環境情報をそのまま解析に用いた。

**結果および考察** 調査期間中、ハシブトガラスを783羽、ハシボソガラスを1034羽確認した。両種は盛岡市では同所的に生息しているが、両種間で選好する環境が異なっていた。ハシブトガラスが休息によく利用したのは宅地で、採食では宅地や水域だった。一方ハシボソガラスが休息によく利用したのは宅地や農耕地で、採食では農耕地だった。さらに、採食環境は時間帯による変化が大きいことから、休息環境よりも生息分布を規定する要因としてはたらいっていることが示唆された。また、特定曜日における生ゴミの出ているエリアと出していないエリアについて生息密度を比較した結果、生ゴミの出ているエリアの生息密度が高く、盛岡市においては、生ゴミはカラスの分布に影響を与えていないことが明らかになった。

餌資源や生息環境が重複している種が同所的に存在するには、使用している環境の使い分けが必要である。本調査地である盛岡市には両種が利用できる宅地や農耕地が含まれているために、両種が同所的に存在することができると考えられる。

---

<sup>1</sup>前岩手大院・農